事業環境認識

世界的な人口増加や高齢化、都市化が進展する中で、地球温暖化や交通事故は大きな社会課題となっています。加えて、社会の情報化・知能化の進展、地政学リスクなどにより、人々の価値観が多様化し、社会課題も複雑化しています。またモビリティ領域の課題に加え、脱炭素対応、交通渋滞緩和など循環型社会の実現やエネルギーバランスの最適化など多くの課題を解決すべく、IoT・AIの技術進化や、電動化、自動運転、コネクティッドなど新しいモビリティソリューションの実装と、モビリティ以外の領域への技術拡張・適用が求められています。

今後も様々な社会変化に対し、社会に与える影響や、事業活動を遂行する上で生じるリスクや機会を的確に捉え、適応しながら、社会課題の解決に挑戦していきます。

これからの社会予測

Politics（政治）

- 世界的なエネルギー需給逼迫と、低炭素から脱炭素へのシフト
  - 地球温暖化は待ったなし、気候変動緩和に向けた国際協調が不可欠に ……①
  - 再生可能エネルギー・水素の利活用が進展 ……①
  - 化石燃料由来の発電・内燃機関への規制 ……①
- サプライチェーン全体での環境、人権への負の影響を規制する法律の策定拡大 ……①②
- 政治体制の違いによる分断・対立激化（貿易／技術／人権など） ……④
- 地政学リスクの拡大 ……①②③④

Economy（経済）

- 先進国経済の停滞、グローバルサウス台頭など、世界は多極化 ……②③④
- 格差拡大による自国主義／ナショナリズムの加速 ……③④
- 自国優位な経済圏構築、地域最適の継続 ……④
- ESG投資の拡大およびそれに伴うESG情報開示ルールづくりの加速 ……①②

Society（社会）

- 人口85億人超、世界の人口増加が社会の持続性を脅かす ……①②③④
- 地球まるごと高齢化、労働力減への備え、健康寿命延伸へ ……②③④
- 新興国都市化、スマート・コンパクト化による都市再生、物流量の増加 ……③④
- 消費行動はエシカル・経験消費、シェアリングエコノミーへ ……①②
- AI・ロボットによる労働代替進展、労働観・可処分時間の変化 ……②

Technology（技術）

- IoT関連技術（通信・デバイスなど）の進展で、デジタルとフィジカルが融合 ……②
- ビッグデータ活用で、生産性向上、バリューチェーン統合 ……①②③
- AI、量子コンピュータは活用フェーズへ、製造・金融・サービスなど多方面でビジネス化 ……②③
- 非接触・無人化があらゆる産業で加速 ……①②

2030年時点の社会変化のキーワード

① 脱炭素社会・循環型経済へのシフト
パワトレミックス変化（電動車、内燃機関車）省エネ・再エネ 資源再活用

② 人々の価値観・消費行動の多様化
消費・価値観の多様性　IT通信×クルマの進化

③ 社会課題の顕在化
高齢化・人口偏在・渋滞

④ 国際社会の構造変化・不安定化
政治対立・地政学リスク 新興国市場の成長

リスクと機会 / リスクと機会に対する対応策

① 脱炭素社会・循環型経済へのシフト

リスク
- 自動車産業への環境規制の強化・加速
- 各国政府による環境税の導入・拡大
- 製品の生産プロセスにおけるカーボンニュートラル化の要請が加速

機会
- 電動化システムや新燃料（e-fuel、水素、バイオ燃料など）に対応するシステムへのニーズが増加
- 脱炭素や資源再利用に資する新技術（水素の生成・利活用、トレーサビリティなど）への期待の高まり
- より高い省エネ効果を実現できる、高効率的な生産技術の要請の高まり

気候変動リスクに対して、これまでデンソーが磨いてきた省燃費・排ガス低減技術や電動化技術を、世界中に普及させる機会が一層拡大すると考えています。また、欧州を中心に循環型社会に向けた取り組みへの期待も高まっています。他社との柔軟な協調・共創の組み合わせにより、CO_2排出量低減技術の開発を加速して世界規模での安定供給を目指すとともに、水素の生成・利活用や、資源の再利用に必要なトレーサビリティなどの新技術の開発により、社会全体のCO_2排出量削減に貢献していきます。また、サプライチェーン全体でのCO_2排出量削減・抑制や資源再利用促進を通じて、脱炭素社会・循環型経済の実現に貢献していきます。

② 人々の価値観・消費行動の多様化

リスク
- デジタル技術の普及や消費行動の変化による移動の減少
- 多様化する価値観に対応するIT新興勢力の参入により競争が激化

機会
- “安心”に対する意識が高まり、“安心”関連技術が多様化、価値が拡大（安全意識、快適さの追求、プライバシー、災害通知など）
- デジタル・IT化の加速による、新たな付加価値へのニーズの高まり

自動運転や安心・快適な車室内空間の提供など、多様化するニーズに素早く応えることで成長機会が広がります。異業種の参入により競争が激化するリスクに対しては、デンソーならではの技術力やモノづくり力を強化しながら、他業種や他社との協働で得意分野を活かし合うことにより、新しい領域の開発をスピード感を持って活性化させていきます。

③ 社会課題の顕在化

リスク
- 優先取組課題の複雑化・深刻化による対応技術開発・事業化の遅れ

機会
- 社会課題の解決に貢献するビジネスが拡大（自動運転、交通事故抑止、食の安全、労働力不足に伴う自動化などのニーズの高まり）

モノの普及が進んだ一方、高齢化や過疎・過密、渋滞といった社会課題が深刻になってきています。それらの社会課題解決のため、予防安全や交通渋滞ゼロなど技術開発を加速していきます。また、車載技術や自動化、IoTといったモノづくりで培ったノウハウにより、非車載分野でも人々の安心に貢献する技術開発やビジネスを常に創出し、世界中に広めていきます。

④ 国際社会の構造変化・不安定化

リスク
- デンソーの事業経営に対する脅威増加（軍事・サイバー攻撃など）
- 国・地域間の分断により、ビジネスモデル（規制対応・サプライチェーン）の見直しが必要

機会
- 課題解決に向けて、新たな市場・ビジネス・協働パートナーの拡大が進展

国際社会は、政治体制の違いなどを背景に、様々な分野での対立・陣営化が進み、デンソーを取り巻く環境の変化、ビジネスリスクの増加が見込まれます。このような情勢下でも安定した事業経営ができるように、変化やリスクに柔軟に対応できるガバナンス・リスクマネジメントの強化を進めていきます。

2030年における社会変化とデンソーにとっての重点取り組み

これからの社会予測をPEST分析によって見直し、2030年時点の社会変化のキーワードとして絞り込んでいます。これらのキーワードに沿って、デンソーにとってのリスクと機会を分析し、重点取り組みを導き出しています。今後もCASEの概念やモビリティ社会に生じる変化を適切に把握しながら、デンソーにとっての重点取り組みに影響がないか見極めていきます。

デンソーにとっての重点取り組み

環境と安心の価値を最大化し、共感を生む

今後の急激な価値観や行動変容といった社会変化は、モビリティ領域で技術と経験を磨き続けてきたデンソーにとって、大きな挑戦の機会です。環境負荷や交通事故のない社会を目指し、「地球にやさしくもっと豊かな環境が広がる社会」「誰もが安全で快適・自由に移動できる社会」の実現に向け、より良いモビリティ社会づくりを積極的に推進していきます。加えて、半導体やソフトウェア、その他車載製品・システムやモノづくりで培った技術を活かし、モビリティ領域のみならず、すべての人が安心・安全に暮らせる社会づくりに貢献し、新たな価値を創造し続けます。

価値創造を支える企業基盤の強化

複雑化・多様化する社会課題に柔軟に対応し、企業価値を高めるため、組織運営体制の見直しやリスクの最小化に向けたリスクマネジメントなどのガバナンスの強化が必要です。また、企業価値を高める人財育成も重要です。企業基盤の強化を通じて、より迅速で質の高い価値の創造を支えていきます。